

第3章 次代の親の育成

施策301 豊かな心の育成 ①子どもの体験活動機会の提供（プラン67頁）

施策目標 家庭、地域、学校、社会教育施設が連携し、遊び、スポーツ、レクリエーション等を通じた体験活動や、豊かな自然を活用した体験活動等、子どもに様々な体験活動の機会を提供し、健全育成を図ります。

■目標指標の推移と総合評価

指標項目	基準値	中間値	26年度目標値	総合評価
社会教育施設を活用した体験活動の延べ参加者数	12,036人	8,997人	12,000人	B

基準値：平成20年度実績値

中間値：平成23年度実績値

■次世代育成支援対策協議会委員による評価・意見

評価	A	B	C
割合	8%	92%	0%

【委員からの主な意見(要約)】

- 子どもにとって体験の場が広がることは、生きる力の育成に重要なことである。
- スポーツ・レクリエーション活動も重要であるが、読書の習慣づけも重要であり、読書活動の推進をお願いする。
- 体験を通じた感動や発見など、子ども達の心に残る仕掛けや人材育成という視点が十分ではないように思う。主体性を育むような内容や工夫をお願いしたい。
- 子ども達がさまざまな体験を通して得るところは大きいと思うので、引き続き対応をお願いする。
- サポートする人材の確保と質の向上をお願いしたい。
- 次代を担う子ども達が成長するための土台づくりとして、種々の体験活動の充実には今後も大いに期待したい。

■課題と今後の対応方針

子どもの社会性を育み、自主性や行動力を向上させるためには、様々な人とふれあい、いろいろな活動を体験することが重要である。子ども達にそのような活動の場を提供するためには、家庭、地域、学校等との連携が必要であり、また、その活動をサポートする人材の確保も必要となる。

引き続き、家庭、地域、社会教育施設が連携し、遊び、スポーツ、レクリエーション等を通じた活動により、子ども達に様々な体験活動の場を提供し、健全育成を図る。

■22～23年度の取組・事業

- 動物とのふれあい飼育体験機会の提供
- 社会教育施設を活用した体験活動機会の提供
- 子ども体験活動推進事業
- 環境学習・啓発事業
- 保育士体験事業の受入れ
- 「はばたけ秋田っ子」教育推進事業
- 子どもの読書活動の推進
- 農業体験学習推進対策事業（再掲）

■24～26年度の取組・事業(予定)

- 動物とのふれあい飼育体験機会の提供
- 社会教育施設を活用した体験活動機会の提供
- 子ども体験活動推進事業
- 環境学習・啓発事業
- 保育士体験事業の受入れ
- 「はばたけ秋田っ子」教育推進事業
- 子どもの読書活動の推進
- 農業体験学習推進対策事業（再掲）（25年度まで）
- 子ども読書活動推進事業

第3章 次代の親の育成

施策301 豊かな心の育成 ②心の健康づくり体制の充実（プラン71頁）

施策目標 小中学校における教育相談体制を整備・充実するとともに、心の健康に関する市民講座の充実を図ります。

■目標指標の推移と総合評価

指標項目	基準値	中間値	26年度目標値	総合評価
「子どもの教育に関することで悩んだり、不安に思っている」親の割合	43.7%	46.5%	基準値より減少	B

基準値：平成20年度秋田市次世代育成支援に関するニーズ調査（小学校児童の親）

中間値：平成24年度秋田市次世代育成支援に関する市民意識調査（小学校児童の親）

■次世代育成支援対策協議会委員による評価・意見

評価	A	B	C
割合	15%	85%	0%

【委員からの主な意見(要約)】

- 親だけではなく、話を聞いてもらいたい、病んでいる子どもも多いと聞くことから、取組の充実を図ってほしい。
- 子どもを取り巻く環境が子どもの精神面にも大きな影響を与えている。心の問題は、今後、大きな課題となり得る可能性も大きく、スクールカウンセラーの配置等の強化が必要である。

■課題と今後の対応方針

引き続き、小中学校にスクールカウンセラーや、心の教育相談員等を配置することにより、児童生徒一人ひとりの状況に応じた教育相談の充実を図る。

■22～23年度の取組・事業

- 精神保健福祉相談・教育事業
- スクールカウンセラー配置事業
- 「心の教室相談員」配置事業
- 思春期講座

■24～26年度の取組・事業(予定)

- 精神保健福祉相談・教育事業
- スクールカウンセラー配置事業
- 「心の教室相談員」配置事業
- 思春期講座

第3章 次代の親の育成

施策302 健やかな体の育成（プラン73頁）

施策目標

体を動かすことの楽しさ、仲間とともにスポーツをする喜びを体験させ、生涯にわたってスポーツに親しむ習慣を身につけるよう環境づくりをします。性感染症・HIV感染者、エイズ患者の早期発見のために、エイズクリニック・相談の利用者の増加を図るとともに、正しい知識の普及に努めます。

■目標指標の推移と総合評価

指標項目	基準値	中間値	26年度目標値	総合評価
①小学生のスポーツ少年団加入率	28.3%	27.2%	30.0%	B
②エイズ相談件数	378件	242件	390件	

基準値：①、②いずれも平成20年度実績値

中間値：①、②いずれも平成23年度実績値

■次世代育成支援対策協議会委員による評価・意見

評価	A	B	C
割合	0%	100%	0%

【委員からの主な意見(要約)】

- スポ小加入者数の減少により、チームを編成できない学校もあることから、今後も、育成・支援が必要である。
- 当面児童数の減少は避けられず、野球など一定の人数がいないと成り立たない競技もあり、今後加入者数の確保は、さらに難しくなっていくことが予想されることから、新たな競技の検討など対策が求められる。
- 仲間とともにスポーツをする喜びを感じられる環境の整備をお願いしたい。
- 子どもが心身ともに健やかに成長する過程においては、魅力あるスポーツに大いに参加・活動することは望ましいことであり、積極的に参加しやすい状況をつくってほしい。
- エイズ罹患の怖さを周知するとともに、検査・相談を受けやすい体制を整備してほしい。

■課題と今後の対応方針

スポーツ少年団の加入率は、全国でもトップレベルの数値であるが、児童数の減少等により、団員数は年々減少傾向にある。子どもたちの心と体を健やかに育て、楽しくスポーツを続けられるよう、加入促進を行っていく必要がある。また、新規HIV感染者数、保健所でのエイズ検査・相談件数は減少しているため、利用者の増加を図ることが課題となる。

今後は、スポーツ少年団の活動が子どもや保護者にとって魅力あるものとなるよう、加入促進を働きかけるとともに、種目別交流大会やジュニア指導者養成セミナー等を開催し、スポーツ少年団活動の活性化を図っていく。また、引き続きエイズ検査・相談事業を行い、教育機会の場として正しい知識の普及に努めるとともに、利用者の増加を図るための方策も検討する。

■22～23年度の取組・事業

- スポーツ少年団の育成・支援
- 幼児スポーツ教室の開催
- エイズ予防対策事業
- 小学校フッ化物洗口事業
- 子宮頸がん等ワクチン接種事業

■24～26年度の取組・事業(予定)

- スポーツ少年団の育成・支援
- 幼児スポーツ教室の開催
- エイズ予防対策事業
- 小学校フッ化物洗口事業
- 子宮頸がん等ワクチン接種事業

第3章 次代の親の育成

施策303 確かな学力の向上（プラン75頁）

施策目標 各校において、適切な学習指導が行われるよう学校訪問指導を通して助言等を行うとともに、教職員の指導力向上にかかる教職員研修会の充実を図ります。また、情報リテラシーの向上のため、小中学校の情報教育環境の充実を図ります。

■目標指標の推移と総合評価

指標項目	基準値	中間値	26年度目標値	総合評価
①学校訪問数	73校	69校	全ての小中学校	B
②指導力向上にかかる講座実施数	28講座	26講座	30講座	
③パソコン整備台数	563台	367台	563台	

基準値：①、②、③いずれも平成20年度実績値

中間値：①、②、③いずれも平成23年度実績値

■次世代育成支援対策協議会委員による評価・意見

評価	A	B	C
割合	15%	85%	0%

【委員からの主な意見(要約)】

○教職員の指導力向上に向けた前向きな姿勢が窺えるものであり、引き続き取り組んでほしい。

■課題と今後の対応方針

引き続き、児童生徒の学習状況や各校の実情に応じた授業改善と学習指導の充実が図られるよう、教員との協議を深めながら、課題解決のための具体的な指導助言等を行う。

また、教科等の指導における今日的な課題や授業づくりのあり方について、効果的で実効性のある研修となるよう内容の充実を図る。

■22～23年度の取組・事業

- 小・中学校情報教育環境整備
- 学校訪問指導、教職員研修会の充実

■24～26年度の取組・事業(予定)

- 小・中学校情報教育環境整備
- 学校訪問指導、教職員研修会の充実

第3章 次代の親の育成

施策304 家庭の教育力の向上（プラン76頁）

施策目標 保護者等が安心して子育てについての電話や面接等により気軽に相談ができ、自立していける環境づくりに努めます。

■目標指標の推移と総合評価

指標項目	基準値	中間値	26年度目標値	総合評価
①児童家庭相談、女性相談の件数	6,709件	3,933件	7,690件	B
②家庭教育相談件数	1,131件	939件	1,200件	

基準値：①、②いずれも平成20年度実績値

中間値：①、②いずれも平成23年度実績値

■次世代育成支援対策協議会委員による評価・意見

評価	A	B	C
割合	8%	92%	0%

【委員からの主な意見(要約)】

- 子育ての不安や悩みを抱えていても、どこに相談したらよいかわからない親も多いと思われることから、PRは重要である。
- 引き続き、相談体制等の充実を図ってほしい。
- 第一に、相談しやすい環境づくりに努めてほしい。

■課題と今後の対応方針

引き続き、子育ての不安や悩みを抱えている家庭を支援するため、家庭教育相談事業のPRに努めるとともに、保護者等が専門的な知識を持つ相談員から、いつでも適切な対応を受けられるよう、相談体制の充実を図っていく。

■22～23年度の取組・事業

- 児童家庭相談・女性相談
- 家庭教育相談事業
- 乳幼児学級
- 家庭教育学級
- 親のためのセミナー

■24～26年度の取組・事業(予定)

- 児童家庭相談・女性相談
- 家庭教育相談事業
- 乳幼児学級
- 家庭教育学級
- 親のためのセミナー

第3章 次代の親の育成

施策305 地域の教育力の向上（プラン78頁）

施策目標 子どもたちの社会性、自主性、創造性等の豊かな人間性やたくましく生きるための健康や体力を備えた生きる力を、学校、家庭、地域の連携により育みます。

■目標指標の推移と総合評価

指標項目	基準値	中間値	26年度目標値	総合評価
①子ども会の組織率	83.0%	84.0%	85.0%	B
②世代間交流事業の延べ参加者数	698人	945人	800人	
③学校体育施設の指定開放日の使用人数	19,683人	10,471人	22,000人	

基準値：①、②、③いずれも平成20年度実績値

中間値：①、②、③いずれも平成23年度実績値

■次世代育成支援対策協議会委員による評価・意見

評価	A	B	C
割合	15%	85%	0%

【委員からの主な意見(要約)】

- 地域の中で異年齢の子ども同士が関わることは重要なことである。
- コミュニティのあり方を念頭に置きつつ、次世代育成支援に引き続き力を入れてほしい。

■課題と今後の対応方針

社会状況やライフスタイルの変化などにより、家族や地域の絆が希薄になりつつある現在、様々な体験、交流、学習活動を通して、子どもたちの社会性、自主性、創造性等の豊かな人間性やたくましく生きるための健康や、体力を備えた力を育むための活動を支援していくことが必要である。

引き続き、子どもたちの社会性、自主性、創造性等の豊かな人間性や、たくましく生きるための健康や、体力を備えた生きる力を、学校、家庭、地域の連携により育むための事業を実施する。
※指標③は、東日本大震災の影響により、学校体育施設を開放しない日があったため、使用人数が減少している。

■22～23年度の取組・事業

- 放課後子ども教室推進事業
- 子ども会世話人の活動支援
- 子ども会活動の表彰
- 子ども会リーダー研修の実施
- 世代間交流事業
- 老人保健福祉月間における小学生の取組
- 総合型地域スポーツクラブの設立支援と育成
- 学校体育施設の開放事業

■24～26年度の取組・事業(予定)

- 放課後子ども教室推進事業
- 子ども会世話人の活動支援
- 子ども会活動の表彰
- 子ども会リーダー研修の実施
- 世代間交流事業
- 老人保健福祉月間における小学生の取組
- 総合型地域スポーツクラブの設立支援と育成
- 学校体育施設の開放事業

第3章 次代の親の育成

施策306 信頼される学校づくり、開かれた学校づくり（プラン81頁）

施策目標 保護者や地域住民の意向を学校づくりに反映させるために、学校評議員の活用を進めます。また、通学区制度の運用に当たっては、子どもや保護者の多様な実情にできるだけ配慮します。

■目標指標の推移と総合評価

指標項目	基準値	中間値	26年度目標値	総合評価
(新)学校評議員の年間活用回数	—	—	平均2.8回	A
(旧)学校教育懇談員の年間活用回数	平均2.5回	平均2.8回	平均2.8回	

基準値：平成20年度実績値

中間値：平成23年度実績値

■次世代育成支援対策協議会委員による評価・意見

評価	A	B	C
割合	100%	0%	0%

【委員からの主な意見(要約)】

○学校評議員制度への移行（ブロック設置→各校設置）により、意見を求める機会を設定しやすくなっている。
○学校と地域のパイプ役としての学校評議員の活用に期待したい。

■課題と今後の対応方針

開かれた学校づくりを推進するため、「絆づくり教育プラン」や「学校評価」などにかかわる協議など、各校の実情に応じて、家庭・地域との話し合いを深める必要がある。
なお、平成24年度から、ブロックごとの設置による学校教育懇談員制度から、学校ごとに委嘱する学校評議員制度へ移行しているが、学校評議員の効果的な活用により、学校の実情に応じた協議を深め、絆づくりを推進する。

■22～23年度の取組・事業

- 学校教育懇談員活用事業
- 通学区域の弾力化

■24～26年度の取組・事業(予定)

- 学校評議員活用事業（事業名変更）
- 通学区域の弾力化

第3章 次代の親の育成

施策307 特別な支援を要する子どもへの支援（プラン82頁）

施策目標 児童生徒一人ひとりの状況に応じた支援の充実を図ります。

目標指標の推移と総合評価

指標項目	基準値	中間値	26年度目標値	総合評価
① 不登校児童生徒への支援～個々に応じた支援により、好ましい変化が見られる。(学校復帰、復帰傾向の割合)	・適応指導教室 28% ・フレッシュフレンド 66%	・適応指導教室 35% ・フレッシュフレンド 20%	・適応指導教室 40% ・フレッシュフレンド 70%	A
② 障がいのある児童生徒への支援～個々に応じた支援の充実を図るため事業を拡充する。 (各支援サポーター派遣数)	・学校行事等支援 延べ114人 ・学級生活支援 延べ58人 ・日本語指導支援 延べ11人	・学校行事等支援 延べ161人 ・学級生活支援 延べ98人 ・日本語指導支援 延べ12人	・学校行事等支援 延べ150人 ・学級生活支援 延べ90人 ・日本語指導支援 延べ12人	

基準値：①、②いずれも平成20年度実績

中間値：①、②いずれも平成23年度実績

次世代育成支援対策協議会委員による評価・意見

評価	A	B	C
割合	92%	8%	0%

【委員からの主な意見(要約)】

- 障がいのある児童生徒が増えてきている現状で、個々に応じた支援サポーターを見かけることが多々あり、充実していると感じる。
- 特別支援を要する子ども達への支援体制へのさらなる充実を望む。

課題と今後の対応方針

児童生徒の障がいの複雑化や保護者の教育的ニーズの多様化に伴い、一人ひとりの状況に応じた適切な支援を行うことができるよう、サポーター研修会の改善を図るなど、事業の充実に向けていく。

22～23年度の取組・事業

- 小・中学校就学奨励事業
- 小・中学校特別支援学級新設経費
- 適応指導センター「すくうる・みらい」運営事業
- 特別支援教育推進事業

24～26年度の取組・事業(予定)

- 小・中学校就学奨励事業
- 小・中学校特別支援学級新設経費
- 適応指導センター「すくうる・みらい」運営事業
- 特別支援教育推進事業

第3章 次代の親の育成

施策308 青少年の健全育成活動の推進（プラン84頁）

施策目標 青少年が豊かな心と知性あふれる社会人として成長するよう、より良い環境づくりを推進します。

■目標指標の推移と総合評価

指標項目	基準値	中間値	26年度目標値	総合評価
①広報啓発活動の実施回数(有害環境対策)	5回	5回	5回	A
②巡視回数(環境浄化活動)	72回	60回	70回	

基準値：①、②いずれも平成20年度実績値

中間値：①、②いずれも平成23年度実績値

■次世代育成支援対策協議会委員による評価・意見

評価	A	B	C
割合	92%	8%	0%

【委員からの主な意見(要約)】

○情報モラルに関しては今後も大きな課題であり、関係機関との連携強化を図る必要がある。

■課題と今後の対応方針

引き続き、市民全体に対する広報啓発活動の実施や、関係機関等と連携し少年指導委員の定例巡回、特別巡回、地区巡回等の指導活動を行っていく。

■22～23年度の実施・事業

- 情報モラル指導の充実
- 有害環境対策
- 環境浄化活動
- 街頭巡回活動
- 少年相談活動
- 青少年健全育成広報活動
- 地区少年指導委員会活動

■24～26年度の実施・事業(予定)

- 情報モラル指導の充実
- 有害環境対策
- 環境浄化活動
- 街頭巡回活動
- 少年相談活動
- 青少年健全育成広報活動
- 地区少年指導委員会活動

第3章 次代の親の育成

施策309 若者の自立支援（プラン87頁）

施策目標 就職を希望する高校生に、職業観の醸成や就職に対する明確な目標を持たせ、ひとりでも多くの就職を実現させます。また、若者についても就職に向かう意識付けをし、就職につなげます。

■目標指標の推移と総合評価

指標項目	基準値	中間値	26年度目標値	総合評価
高校生就職率 (ハローワーク秋田管内)	99.0%	99.5%	100%	B

基準値：平成20年度実績値

中間値：平成23年度実績値

■次世代育成支援対策協議会委員による評価・意見

評価	A	B	C
割合	15%	85%	0%

【委員からの主な意見(要約)】

- 高校生の就職については、技術や資格がないと厳しい現状であり、継続的な支援が必要である。
- 高校生の就労支援の継続実施とともに、魅力ある企業の開拓の必要性もあるのではないかと。

■課題と今後の対応方針

引き続き、自分にあった職種の見つけ方、就職に必要な技術等を習得させるための講座等を行う。

■22～23年度の取組・事業

- 高校生就職支援事業
- 若年者職業能力開発事業
- 若者の自立支援
- 介護雇用プログラム推進事業
- 修学一時資金緊急支援金交付事業

■24～26年度の取組・事業(予定)

- 高校生就職支援事業
- 若年者職業能力開発事業
- 若者の自立支援
- 修学一時資金緊急支援金交付事業

第3章 次代の親の育成

施策310 若者同士の交流機会の拡大（プラン89頁）

施策目標 結婚に対する希望が実現されるように、市民との協働により、若者同士の交流機会の拡大を図ります。

■目標指標の推移と総合評価

指標項目	基準値	中間値	26年度目標値	総合評価
(新)あきた結婚支援センター登録会員数(秋田市民)	—	422人	600人	B
(旧)参加者満足度(若者が創る出会いの場応援事業)	—	85.3%	100%	

中間値：平成23年度実績値(旧)および平成24年7月末実績値(新)

■次世代育成支援対策協議会委員による評価・意見

評価	A	B	C
割合	15%	85%	0%

【委員からの主な意見(要約)】

- 出会いの場の提供は、継続してもいいのではという思いもある。
- 未婚者がやはり多いように思うことから、魅力ある取組を通して、若者が結婚に対して希望を持てるようになってくれたらと願う。
- 現在、地元を離れている未婚の本市出身者に対しても交流機会の拡大を図っていけば、Aターン希望者が増えるのではないかな。

■課題と今後の対応方針

引き続き、若者の結婚に対する希望が実現されるよう、あきた結婚支援センターと連携しながら取組を進めていくとともに、若い世代のまちづくりの担い手を育てるため、まちづくりイベントに対する助成を実施していく。

■22～23年度の実施・事業

- 若者が創る出会いの場応援事業
- 秋田駅周辺まちづくりイベント支援事業
- トップスポーツクラブ主催イベントへの支援
- 動物園ときめきナイト事業

■24～26年度の実施・事業(予定)

- 若者が創る出会いの場応援事業（24年度のみ）
- 秋田駅周辺まちづくりイベント支援事業
- あきた結婚支援センターとの連携による支援